

資源評価調査委託事業
スルメイカ漁場一斉調査（要約）

今村豊

目 的

太平洋海域におけるイカ類資源の有効利用、イカ類漁業の操業の効率化と経営安定に寄与するため、スルメイカの漁況予報に必要な分布・回遊、成長・成熟および海洋環境などに関する資料を収集する。

材料と方法

2019年5～6月と8月に本県東方の太平洋海域において、下記調査を行った。なお、本調査は、北海道沖太平洋沿岸のイカ類の漁海況予報を目的に、本県のほか、北海道区水産研究所、北海道、岩手県、宮城県の関係県が分担して実施した。

1. 第一次調査

- (1) 期 間：2019年5月31日から6月6日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域35地点について、seabird社製CTD・9plusを使用して表層から最深1000mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、14地点において2連式3台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

2. 第二次調査

- (1) 期 間：2019年8月31日から9月3日（試験船・開運丸）
- (2) 調査項目：太平洋沖合海域32地点について、seabird社製CTD・9plusを使用して表層から最深1000mまでの水温と塩分を測定し、平年値と比較すると共に、8地点において2連式3台の自動イカ釣り機により釣獲されたイカ類について種毎に全尾数を計数し、そのうち最大100個体について外套長を測定した。

結 果

1. 第一次調査

津軽暖流の各層水温は0m層が「平年並み」、50m層及び100m層が「やや高め」、水塊深度は「平年並み」、津軽暖流の東方への張り出しは「平年並み」であった。

14地点全点でイカ類の漁獲はなかった。

2. 第二次調査

津軽暖流の各層水温は、0m層及び50m層は「平年並み」、100m層は「やや高め」、水塊深度は「やや浅め」、津軽暖流の東方への張り出しは「平年並み」であった。

8地点中5地点でイカ類の漁獲があった。8地点中1地点でスルメイカ、4地点でアカイカが漁獲された。スルメイカの有漁率は12.5%、アカイカの有漁率は50%であった。有漁地点のスルメイカの漁獲尾数は5尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは0.32尾で、外套長は15cmから20cmであった。また、有漁地点のアカイカの漁獲尾数は1尾から15尾、1台（2ライン）・1時間当たりのCPUEは共に0.17尾から2.50尾で、漁獲されたアカイカの外套長は19cmから31cmであった。